

- 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, シタグリブチンリン酸塩水和物. スズケンファーマ. 2010;13:2-5.
4. 伊藤晃成, 山本武人, 鈴木洋史: これだけは知っておきたい検査のポイント第8集、血中薬物濃度：強心薬. medicina 2010;47:296-297.
 5. 伊藤晃成, 樋坂章博, 鈴木洋史: 小児期の薬物代謝の特徴・ファーマコゲノミクスと小児医療・必携 小児の薬の使い方. 小児内科. 2010;42:16-22.
 6. 伊藤晃成, 樋坂章博, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流, 胎児・母乳への薬物移行の予測の可能性. 月刊薬事. 2010;52:1981-1988.
 7. 高橋裕子, 黒田誠一郎, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, ゲフィチニブ. スズケンファーマ. 2010;13:2-5.
 8. 高田龍平, 鈴木洋史: コレステロールトランスporter NPC1L1 によるビタミンEの消化管吸収. ビタミン. 2010;84:376-383.
 9. 佐藤美緒, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, プラミペキソール塩酸塩水和物. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 10. 三浦将吾, 黒田誠一郎, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, ゲフィチニブ. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 11. 山上恵莉, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, シタグリブチンリン酸塩水和物. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 12. 山本一彦, 鈴木洋史 (編集), 大野能之ほか (分担執筆): 薬剤ごとの違いがわかるステロイドの使い分け. 羊土社. 2010.
 13. 山本武人, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 持続的腎機能代替療法 (CRRT) 導入時の薬剤投与量調節の考え方. 臨床透析. 2010;26:1371-1377.
 14. 山本武人, 樋坂章博, 大野能之, 鈴木洋史: CRRT 中の薬物投与量：抗菌薬の投与量設計を中心として. Intensivist. 2010;2:329-345.
 15. 山本武人, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流、血液透析患者への投与設計. 月刊薬事. 2010; 52:1953-1959.
 16. 山本武人, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流、ファーマコゲノミクスと薬剤師の役割. 月刊薬事. 2010;52:2007-2013.
 17. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 正田純一, 鈴木洋史: Niemann-Pick C2 は ABCG5/G8 によるコレステロール排出を促進する. 薬理と治療. 2010;38:127-129.
 18. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: 痛風の主要な病因遺伝子 ABCG2 の同定. 実験医学.

- 2010;28:1285-1289.
19. 杉山雄一, 鈴木洋史, 樋坂章博, 大野能之, 前田和哉: 付録ポスター: 薬物代謝酵素・トランスポーターと薬物間相互作用. PharmaTribune 2010;4.
 20. 大野雅子, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, ペプリジル塩酸塩水和物. スズケンファーマ. 2010;13:2-5.
 21. 大野能之, 樋坂章博, 三角由香里, 鈴木洋史: 薬物間相互作用情報の重要度評価. Global Pharmacists. 2010;6:7-9.
 22. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 抗 HIV 薬の相互作用の評価とマネジメント. 日本病院薬剤師会雑誌. 2010;46:1064-1067.
 23. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流: 相互作用情報とマネジメント. 月刊薬事. 2010;52.
 24. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流, 腎機能低下患者への投与設計. 月刊薬事. 2010;52:1947-1951.
 25. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 医薬品情報提供活動の新しい潮流, 大学病院における医薬品情報提供活動. 月刊薬事. 2010;52:2035-2040.
 26. 藤井千秋, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, トピラマート. スズケンファーマ. 2010;13:2-5.
 27. 藤野知子, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, クロピドグレル硫酸塩. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 28. 樋坂章博, 鈴木洋史: 代謝酵素, トランスポーターによる薬物間相互作用, 個人間変動が薬効, 副作用に与える影響の解析. 創薬科学の魅力・東京大学大学院薬学系研究科からの発信・杉山雄一ほか編集. 2010:399-419.
 29. 箕輪直美, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション パーキンソン病. スズケンメディカル. 2010;13.
 30. 箕輪直美, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, プラミペキソール塩酸塩水和物. スズケンファーマ. 2010;13:2-5.
 31. 矢富裕, 池田均, 下澤達雄 (編集), 大野能之, 鈴木洋史ほか (分担執筆): 臨床検査値判読ハンドブック. 南江堂. 2010.
 32. 鈴木絵理, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, トピラマート. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 33. 鈴木美央, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, ペプリジル塩酸塩水和物. スズケンメディカル. 2010;13:11-12.
 34. 鈴木洋史, 山本武人, 辻省次: 病院診療システムへのファーマコゲ

- ノミクスの導入. 日本医師会雑誌. 2010;139:609-613.
35. 吉岡紗由, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, ペグインターフェロン・リバビリン併用療法. スズケンメディカル. 2011;14:11-12.
36. 山梨義英, 高田龍平, 鈴木洋史: 薬効標的としての ABC タンパク質. 遺伝子医学 MOOK. 2011;19:176-181.
37. 松岡麗子, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, 炭酸ランタン水和物. スズケンファーマ. 2011;14:2-5.
38. 本田英博, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, リバビリン. スズケンファーマ. 2011;14:2-5.
39. 松尾洋孝: 痛風の病因遺伝子. 痛風と核酸代謝. 2010;34:159-169.
40. 松尾洋孝, 市田公美: GLUT9 の異常症. 高尿酸血症と痛風. メディカルレビュー社. 2010:84-89.
41. 中山昌喜, 松尾洋孝, 四ノ宮成祥. 遺伝要因. 内科系総合雑誌 Modern Physician. 新興医学出版社. 2010:1385-1388.
42. 中山昌喜, 松尾洋孝, 四ノ宮成祥. 痛風の遺伝子. リウマチ科. 科学評論社. 2010:689-694.
43. 松尾洋孝. トランスポーターの分子機能を指標とした臨床遺伝学的解析による痛風の主要病因遺伝子 ABCG2 の同定. 遺伝子医学 MOOK. 2011;19:116-125.
44. 松尾洋孝. 尿酸輸送. トランスポーターソームの世界-膜輸送研究の源流から未来へ-. 特定領域研究「生体膜トランスポーターソームの分子構築と生理機能」事務局. 2011:179-191.
45. Makino, T., Togo, T., Yasui, H.: Kampo Medicine and Japanese Acupuncture. J Int Soc Oriental Med. 2010:10-21.
46. 牧野利明: 生薬・漢方薬の基礎と臨床生薬学. 明日の臨床. 2010;22:11-18.
47. 牧野利明: 生薬学と医療薬学の融合～「臨床生薬学」の紹介. 薬学雑誌. 2010;131:375-382.
48. 牧野利明. 漢方薬学教育を考える. 漢方の臨床. 2011;58:73.
- 【学会発表】
1. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 中村好宏, 池淵祐樹, 伊藤晃成, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史: 尿酸排出トランスポーター ABCG2/BCRP は痛風の主要病因遺伝子である. 日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 12 日～14 日;徳島.
2. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 鈴木洋史: 胆汁中における分泌型 Niemann-Pick C2 の機能解析. 日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 12 日～14 日;徳島.
3. 小西健太郎, 高田龍平, 山本武人, 山梨義英, 鈴木洋史: エゼチミブによるビタミン K1 吸収阻害作用. 日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5

- 月 12 日～14 日;徳島.
4. 小沢政成, 本間雅, 鈴木洋史: 抗がん剤投与後の *in vivo* 末梢 CD4+T 細胞数減少推移は *in vitro* 試験から予測可能である. 日本薬剤学会第 25 年会. 2010 年 5 月 12 日～14 日;徳島.
 5. Hisaka, A., Ohno, Y., Yamaguchi, R., Ueno, M., Suzuki, H.: Prediction of Clearance Changes of Substrate Drugs of Major Cytochrome P450s Caused by Drug-Drug-Interaction: Relationships with Clearances in Poor and Intermediate Metabolizers. 18th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations. 2010 年 5 月 16～20 日;Beijing, China.
 6. Honma, M., Ikebuchi, Y., Yamamoto, T., Soga, T., Ito, K., Kozawa, M., Yoshida, H., Suzuki, H.: Generation Of Oxidative Stress Is A Common Feature Among Drug-Induced Liver Injuries Caused By Wide-Ranging Therapeutic Drugs. 18th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations. 2010 年 5 月 16～20 日;Beijing, China.
 7. Kozawa, M., Honma, M., Chiba, A., Soga, T., Yoshida, H., Yamamoto, T., Ikebuchi, Y., Ito, K., Suzuki, H.: Hypoxanthine Attenuates The Development Of Acute Liver Failure Via The Purine Salvage Pathway In Rats. 18th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations. 2010 年 5 月 16～20 日;Beijing, China.
 8. Masuo, Y., Ito, K., Yamamoto, T., A., H., Suzuki, H.: Mechanism-based Inhibition of De-conjugation of Valproic Acid Glucuronide by Carbapenem Antibiotics. 18th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations. 2010 年 5 月 16～20 日;Beijing, China.
 9. Sasaki, Y., Hisaka, A., Suzuki, H.: Development of Population Model for Expression of Cytochrome P450s and Relating Enzymes in Human Liver Microsome. 18th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations. 2010 年 5 月 16～20 日;Beijing, China.
 10. Suzuki, H., Honma, M., Hisaka, A., Takada, T., Ito, K.: Pharmacokinetic study towards understanding *in vivo* behavior of small molecules. 第 87 回日本生理学会大会. 2010 年 5 月 19 日～21 日;盛岡.
 11. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中山昌喜, 草薙恭圭, 高田雄三, 井上寛規, 細谷龍男, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: 尿酸トランスポーターによる尿酸再吸収お

- よび排泄の分子機構. 第 87 回日本生理学会大会. 2010 年 5 月 19 日～21 日;盛岡.
12. 高田龍平, 成島和哉, 山梨義英, 小西健太郎, 鈴木洋史: NPC1L1 を介した腸管におけるコレステロールとビタミン E の吸収機構・薬剤との相互作用-. 第 64 回日本栄養・食糧学会大会. 2010 年 5 月 21 日～23 日;徳島.
 13. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: 生活習慣病発症に関わる尿酸トランスポーター: ゲノムワイド解析後の新展開. 第 64 回日本栄養・食糧学会大会. 2010 年 5 月 21 日～23 日;徳島.
 14. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 正田純一, 鈴木洋史: Niemann-Pick C2 は ABCG5/G8 によるコレステロール排出を促進する. 第 18 回肝病態生理研究会. 2010 年 5 月 26 日;山形.
 15. 高田龍平, 成島和哉, 山梨義英, 小西健太郎, 鈴木洋史: コレステロールトランスポーターNPC1L1 によるビタミン E の消化管吸収. 日本ビタミン学会第 62 回大会. 2010 年 6 月 11 日～12 日;盛岡.
 16. 山本武人, 大久保聡, 樋坂章博, 久木勇人, 鈴木洋史: ポリコナゾールの非線形性に関する薬物動態学的解析. 第 27 回日本 TDM 学会・学術大会. 2010 年 6 月 26 日～27 日;札幌.
 17. 山口諒, 大野能之, 樋坂章博, 上野正貴, 中島克佳, 鈴木洋史: 薬物動態学的相互作用を示すシトクロム P450 の基質・阻害薬・誘導薬の選択 2 ～相互作用の強さによるクラス分類と選択薬のアップデート～. 第 18 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2010 年 7 月 10 日～11 日;広島.
 18. 吉門崇, 高田龍平, 山本武人, 山道寛子, 伊藤晃成, 三田智文, 鈴木洋史: MDR3/ABCB4 阻害を介したイトラコナゾール誘発性胆汁うっ滞. 第 5 回トランスポーター研究会. 2010 年 7 月 10 日～11 日;東京.
 19. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 鈴木洋史: コレステロール排出トランスポーターABCG5/G8 と胆汁中蛋白質NPC2 の機能連関の解析. 第 5 回トランスポーター研究会. 2010 年 7 月 10 日～11 日;東京.
 20. 池淵祐樹, 伊藤晃成, 高田龍平, 安西尚彦, 金井好克, 鈴木洋史: Receptor for Activated C-Kinase 1 (RACK1)によるBCRP/ABCG2 選択的な発現・局在制御. 第 5 回トランスポーター研究会. 2010 年 7 月 10 日～11 日;東京.
 21. 中山昌喜, 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 高田雄三, 井上寛規, 河村優輔, 櫻井裕, 細谷龍男, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: ABCG2/BCRP は痛風の主要な病因遺伝子である. 第 5 回トランスポーター研究会. 2010 年 7 月 10 日～11 日;東京.
 22. 鈴木伸悟, 首藤剛, 佐藤卓史, 高

- 田龍平, MaryAnnSuico, 古賀友紹, 森野沙緒里, 鈴木洋史, 甲斐広文: ABC トランスポーター ABCG5 および ABCG8 の翻訳後発現制御における HRD1 の役割. 第 5 回トランスポーター研究会. 2010 年 7 月 10 日~11 日;東京.
23. 荻谷嘉顕, 本間雅, 青木重樹, 二宮禎, 中道裕子, 宇田川信之, 鈴木洋史: 骨芽細胞における Rab27a および Rab27b を介した RANKL 放出制御. 第 28 回日本骨代謝学会学術集会. 2010 年 7 月 21 日~23 日;東京.
24. 青木重樹, 本間雅, 荻谷嘉顕, 中道裕子, 二宮禎, 高橋直之, 宇田川信之, 鈴木洋史: OPG による RANKL 細胞内選別輸送制御機構の解析. 第 28 回日本骨代謝学会学術集会. 2010 年 7 月 21 日~23 日;東京.
25. Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Nakayama, A., Takada, Y., Inoue, H., Kawamura, Y., Sakurai, Y., Hosoya, T., Kanai, Y., Suzuki, H., Shinomiya, N.: Common variants of ABCG2/BCRP cause gout. Gordon Research Conference on Membrane Transport Proteins. 2010 年 8 月 15 日~20 日;University of New England, Biddeford, ME, USA.
26. Nakayama, A., Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Ikebuchi, Y., Ito, K., Hosoya, T., Kanai, Y., Suzuki, H., Shinomiya, N.: ABCG2/BCRP is a high-capacity urate transporter and its common variant increases serum uric acid levels in humans. Gordon Research Conference on Membrane Transport Proteins. 2010 年 8 月 15 日~20 日;University of New England, Biddeford, ME, USA.
27. 本間雅, 山本奈央子, 雨宮貴洋, 鈴木洋史: キナーゼ阻害薬による副作用とオフ・ターゲット阻害プロファイル. 第 3 回日本ファーマコメトリクス研究会. 2010 年 9 月 3 日~4 日;東京.
28. 山本武人, 寺川央一, 樋坂章博, 鈴木洋史: 経時的なクリアランス変動を考慮した薬物動態モデルの構築とベイズ推定によるバンコマイシンの体内動態解析への応用. 第 3 回日本ファーマコメトリクス研究会. 2010 年 9 月 3 日~4 日;東京.
29. Hisaka, A., Sasaki, Y., Suzuki, H.: Expressions of Hepatic Cytochrome P450 May be Regulated Dynamically and Cooperatively. 9th International Meeting of ISSX. 2010 年 9 月 4 日~8 日;Istanbul, Turkey.
30. 鈴木伸悟, 首藤剛, 佐藤卓史, 高田龍平, 金子雅幸, MaryAnnSuico, 古賀友紹, 森野沙緒里, 鈴木洋史, 甲斐広文:

- ABC トランスポーター ABCG5 および ABCG8 の翻訳後発現制御における HRD1 の役割. 第 4 回トランスポーター研究会九州部会. 2010 年 9 月 11 日;長崎.
31. 樋坂章博, 大野能之, 鈴木洋史: 相互作用の予測をどのように臨床に応用するか. 第 20 回日本臨床精神神経薬理学会. 2010 年 9 月 15 日~17 日;仙台.
32. 高田龍平: 脂質異常症治療薬の薬効標的分子 NPC1L1 による脂溶性物質輸送. 第 54 回日本薬学会関東支部大会. 2010 年 10 月 2 日;東京.
33. Suzuki, H., Sekine, S., Horie, T., Ito, K.: Posttranslational regulation of Abcc2 through sumoylation. Falk Symposium 175: XXI International Bile Acid Meeting. 2010 年 10 月 7 日~8 日;Freiburg, Germany.
34. Ikebuchi, Y., Ito, K., Honma, M., Kozawa, M., Yamamoto, T., Suzuki, H.: Glutathione decrease is one of key factors for drug-induced liver injury in rats induced by lipopolysaccharide and diclofenac coadministration. 25th JSSX Annual Meeting. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
35. Sasaki, Y., Hisaka, A., Suzuki, H.: Extensive and cooperative regulation of expression of cytochrome P450 3A in human liver. 25th JSSX Annual Meeting. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
36. Tsukihashi, A., Hisaka, A., Suzuki, H.: A new calculation method of intestinal availability from pharmacokinetic changes by drug-drug interaction. 25th JSSX Annual Meeting. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
37. 吉門崇, 高田龍平, 伊藤晃成, 三田智文, 鈴木洋史: Effect of ticlopidine on MDR3/ABCB4-mediated biliary secretion of phospholipids. 第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
38. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史: NPC1L1, a pharmacological target of dyslipidemia. 第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
39. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 鈴木洋史: Stimulatory effect of biliary NPC2 on ABCG5/G8-mediated cholesterol secretion. 第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
40. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: Identification of ABCG2/BCRP as a major cause for gout. 第 25 回日本薬物動態学会年会. 2010 年 10 月 7 日~9 日;大宮.
41. Aoki, S., Honma, M., Kariya, Y., Nakamichi, Y., Ninomiya, T.,

- Takahashi, N., Udagawa, N., Suzuki, H.: Function of OPG as traffick regulator for RANKL is crucial for controlled osteoclastogenesis. ASBMR 2010 Annual Meeting. 2010年10月15日～19日;Toronto, Canada.
42. Honma, M., Kariya, Y., Aoki, S., Suzuki, H.: Vps33a mediates RANKL storage in secretory lysosomes in osteoblastic cells. ASBMR 2010 Annual Meeting. 2010年10月15日～19日;Toronto, Canada.
43. Kariya, Y., Honma, M., Hanamura, A., Aoki, S., Ninomiya, T., Nakamichi, Y., Udagawa, N., Suzuki, H.: Rab27a and Rab27b are involved in stimulation-dependent RANKL release from secretory lysosomes in osteoblastic cells. ASBMR 2010 Annual Meeting. 2010年10月15日～19日;Toronto, Canada.
44. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中山昌喜, 高田雄三, 井上寛規, 櫻井裕, 細谷龍男, 金井好克, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2/BCRP の同定. 日本人類遺伝学会第55回大会. 2010年10月27日～30日;大宮.
45. 大野能之, 山本武人, 樋坂章博, 鈴木洋史: 腎排泄性薬物の投与設計における注意点. 第4回日本腎と薬剤研究会学術大会. 2010年10月30日～31日;横浜.
46. Inoue, H., Matsuo, H., Takada, T., Ichida, Y., Nakamura, T., Nakayama, A., Suzuki, K., Hosoya, T., Suzuki, H., Hamajima, N., Shinomiya, N.: ABCG2/BCRP encodes a high-capacity urate transporter and its common variant increases serum uric acid levels in humans. 2010 American Society of Human Genetics Annual Meeting. 2010年11月2日～6日;Washington DC, USA.
47. Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Nakayama, A., Takada, Y., Inoue, H., Kawamura, Y., Sakurai, Y., Hosoya, T., Suzuki, H., Shinomiya, N.: ABCG2/BCRP as a major causative gene for gout. 2010 American Society of Human Genetics Annual Meeting. 2010年11月2日～6日;Washington DC, USA.
48. 伊藤晃成, 清水秀俊, 池淵祐樹, 鈴木洋史: ウルソデオキシコール酸およびその抱合体による肝毛細胆管形態への作用. 第32回胆汁酸研究会. 2010年11月6日;仙台.
49. 佐藤美緒, 柳原良次, 鈴木美央, 山上恵莉, 岩原良晴, 眞野民男, 中島克佳, 鈴木洋史: 処方オーダーリングシステムを利用した静脈栄養処方監査支援システムの開発.

- 第20回日本医療薬学会年会.
2010年11月13日～14日;千葉.
50. 上野正貴, 大野能之, 樋坂章博, 山本武人, 鈴木洋史: リファンピシンのCYP2C9誘導による薬物間相互作用の予測. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
51. 折山豊仁, 柳原良次, 奈良克彦, 阿部敏秀, 苫米地敬, 中島克佳, 青山隆夫, 鈴木洋史: 注射薬混合調製に装着する医療用手袋における抗悪性腫瘍薬の透過性に関する検討-2. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
52. 大野能之, 山本武人, 樋坂章博, 鈴木洋史: CKD患者の薬物投与設計. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
53. 内野智信, 大川寛代, 宮寄靖則, 本田英博, 柳原良次, 高橋昌広, 吉森孝行, 桜井智宏, 中島克佳, 鈴木洋史, 賀川義之: 市販抗体製剤中に含有されている凝集体に関する研究. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
54. 本多秀俊, 大野能之, 清野敏一, 中島克佳, 伊藤晃成, 鈴木洋史: 保険薬局における患者情報の収集とお薬手帳の電子化に関するアンケート調査. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
55. 柳原良次, 苫米地敬, 片岡ヤス子, 小見山智恵子, 中島克佳, 鈴木洋史: 抗悪性腫瘍薬の混合調製から投与、廃棄まで考慮した曝露防止器材の評価. 第20回日本医療薬学会年会. 2010年11月13日～14日;千葉.
56. Amemiya, T., Honma, M., Suzuki, H.: Mechanism of liver injury related to sunitinib treatment. 第4回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. 2010年11月27日～28日;東京.
57. Ikebuchi, Y., Ito, K., Honma, M., Kozawa, M., Yamamoto, T., Suzuki, H.: Hepatic glutathione and inflammatory cytokines cooperatively regulate onset of drug-induced liver injury. 第4回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. 2010年11月27日～28日;東京.
58. Takada, T., Matsuo, H., Ichida, K., Shinomiya, N., Suzuki, H.: ABCG2/BCRP, a high-capacity urate transporter, is a major causative gene for gout. 第4回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. 2010年11月27日～28日;東京.
59. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史: 尿酸排出トランスポーターABCG2は痛風の主要な病因遺伝子である. 第32回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム. 2010年11月29日～30日;富山.

60. 高田龍平, 山梨義英, 吉門崇, 鈴木洋史: コレステロール胆汁分泌における ABCG5/G8 と NPC2 の機能連関. BMB2010. 2010 年 12 月 7 日～10 日;神戸.
61. 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 中村好宏, 中山昌喜, 池淵祐樹, 伊藤晃成, 高田雄三, 井上寛規, 河村優輔, 内海由貴, 櫻井裕, 細谷龍男, 金井好克, 鈴木洋史, 四ノ宮成祥: 痛風の主要病因遺伝子の探索と同定. BMB2010. 2010 年 12 月 7 日～10 日;神戸.
62. 本多秀俊, 中島克佳, 鈴木洋史, 比田井真, 尾田史郎, 田中勝弥, 大江和彦, 小池創一: QR コードを利用した院外処方せんの情報共有システムの構築. 大学病院情報マネジメント部門連絡会議. 2011 年 2 月 3 日～4 日;茨木.
63. 松尾洋孝, 市田公美, 清水徹, 高田龍平, 中村好宏, 中山昌喜, 高田雄三, 井上寛規, 櫻井裕, 金井好克, 鈴木洋史, 浜島信之, 細谷龍男, 四ノ宮成祥: 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2 の臨床遺伝学的解析. 日本痛風・核酸代謝学会第 44 回総会. 2011 年 2 月 17 日～18 日;東京.
64. Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Nakayama, A., Takada, Y., Sakurai, Y., Hosoya, T., Kanai, Y., Suzuki, H., Shinomiya, N.: Identification of ABCG2 as a major cause for gout. 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man. 2011 年 2 月 18 日～21 日;Tokyo, Japan.
65. Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Suzuki, H., Hosoya, T., Shinomiya, N.: ABCG2/BCRP dysfunction as a major cause for gout. 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man. 2011 年 2 月 18 日～21 日;Tokyo, Japan.
66. Nakayama, A., Matsuo, H., Takada, T., Ichida, K., Nakamura, T., Ikebuchi, Y., Ito, K., Hosoya, T., Kanai, Y., Suzuki, H., Shinomiya, N.: ABCG2 is a high-capacity urate transporter and its genetic impairment increase serum uric acid levels in humans. 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man. 2011 年 2 月 18 日～21 日;Tokyo, Japan.
67. 花村暁子, 本間雅, 青木重樹, 苅谷嘉顕, 鈴木洋史: mTOR は RANKL のリバーシブルシグナルに関与している. 第 84 回日本薬理学会年会. 2011 年 3 月 22 日～24 日;横浜.
68. 苅谷嘉顕, 本間雅, 花村暁子, 青木重樹, 鈴木洋史: 骨芽細胞における RANKL は RANK 刺激依存的経路および非依存的経路を介し

- て細胞表面へ輸送される. 第84回日本薬理学会年会. 2011年3月22日~24日;横浜.
69. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史: コレステロールの胆汁排泄におけるトランスポートソーム. 第84回日本薬理学会年会. 2011年3月22日~24日;横浜.
70. 青木重樹, 本間雅, 苅谷嘉顕, 林直樹, 鈴木洋史: OPGのHBDがRANKL骨芽細胞内選別輸送制御に重要な役割を担う. 第84回日本薬理学会年会. 2011年3月22日~24日;横浜.
71. 伊藤晃成, 関根秀一, 堀江利治, 鈴木洋史: Post-translational regulation of ABC transporters involved in bile flow formation. 第88回日本生理学会大会 第116回日本解剖学会総会・全国学術集会. 2011年3月28日~30日;横浜.
72. 安藤裕崇, 樋坂章博, 月橋亜矢子, 鈴木洋史: 薬物の消化管吸収の新しいモデルの提案—Translocationモデル—. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日~31日;静岡.
73. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史: 創薬標的としての尿酸排出トランスポーター—ABCG2/BCRP. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日~31日;静岡.
74. 佐々木優, 樋坂章博, 鈴木洋史: ヒト肝ミクロソームにおけるシトクロム P450 および関連酵素の選択的分解. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日~31日;静岡.
75. 山口諒, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: リスクの高い薬物間相互作用の注意喚起の問題点—日本と米国の添付文書の比較—. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日~31日;静岡.
76. 鈴木理恵, 山本武人, 櫻井愛, 上野正貴, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: リファンピシンによるワルファリンの抗凝固作用変動の定量的解析. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日~31日;静岡.
77. Kawamura, Y., Matsuo, H., Chiba, T., Nagamori, S., Nakayama, A., Inoue, H., Domoto, H., Kikuchi, Y., Oda, T., Nishiyama, J., Kanai, Y., Shinomiya, N.: Pathogenic GLUT9 mutations in renal hypouricemia type 2. Gordon Research Conference on Membrane Transport Proteins. 2010年8月15日~20日;Biddeford, ME, USA.
78. Kawamura, Y., Matsuo, H., Chiba, T., Nagamori, S., Nakayama, A., Inoue, H., Utsumi, Y., Oda, T., Nishiyama, J., Kanai, Y., Shinomiya, N.: Pathogenic GLUT9 mutations causing renal hypouricemia type 2 (RHUC2). 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man.

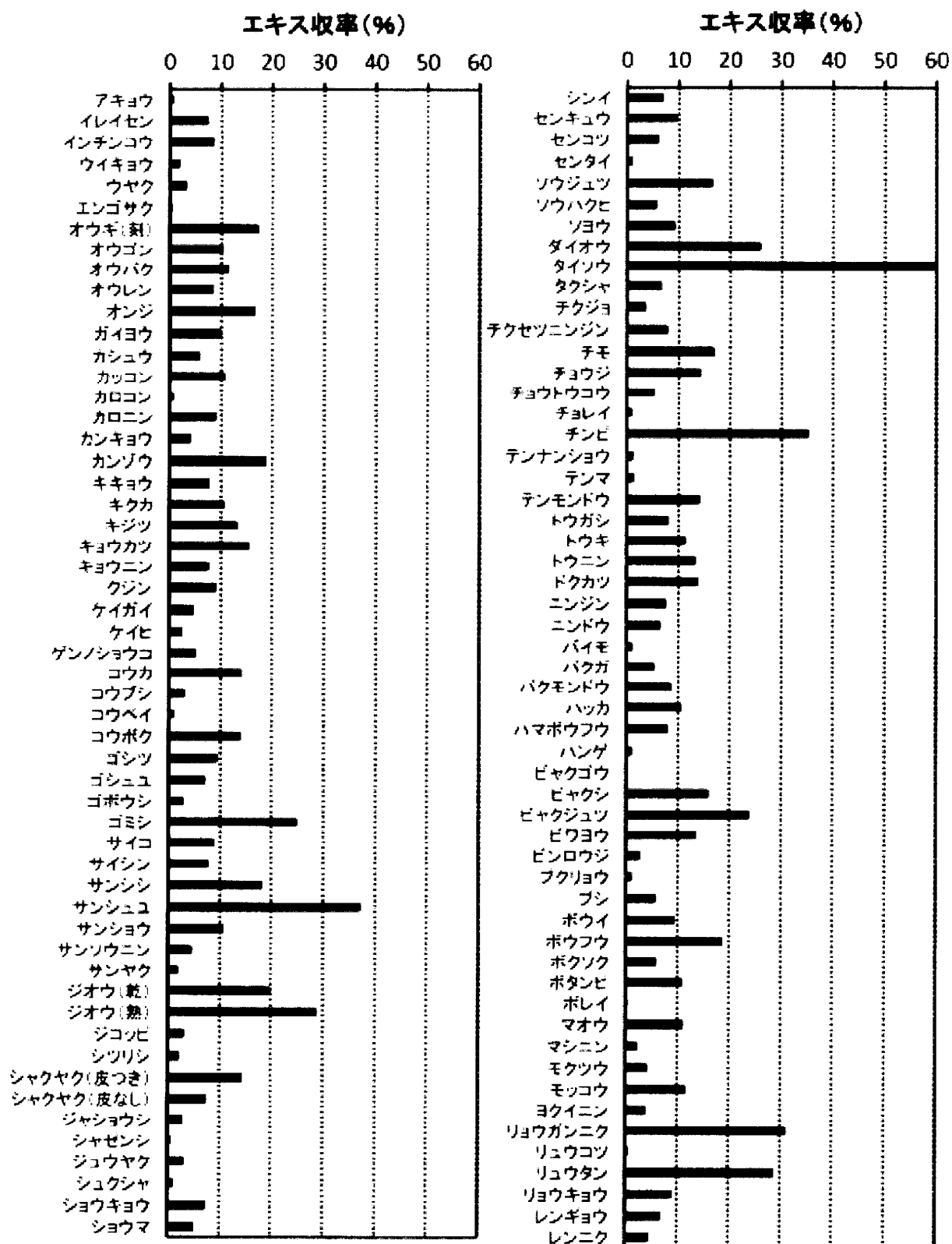
- 2011年2月18日～21日;Tokyo, Japan.
79. 松尾洋孝: 痛風原因遺伝子の解明. 第1回佐賀尿酸研究会. 2010年4月1日;佐賀.
80. 松尾洋孝: 痛風遺伝子の解明とオーダーメイド医療の可能性～生活習慣病で初の主要病因遺伝子～. 第1回所沢生活習慣病研究会. 2010年5月17日;川越.
81. 松尾洋孝: 痛風の主要原因遺伝子 ABCG2 の同定. 第15回千葉尿酸懇話会. 2010年11月25日;千葉.
82. 渡辺智, 松尾洋孝, 小林靖, 佐藤泰司, 青木久, 藤田真敬, 中山昌喜, 四ノ宮成祥, 鈴木信哉: 一酸化炭素中毒によるラット海馬における myelin basic protein の一過性的変化. 第45回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会. 2010年11月26日～27日;岡山.
83. 高田雄三, 松尾洋孝, 井上寛規, 中山昌喜, 松村耕治, 四ノ宮成祥, 小林靖: 尿酸排泄トランスポーター遺伝子の迅速タイピング. 第21回生物試料分析科学会年次学術集会. 2011年2月19日～20日;松山.
84. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 井上寛規, 四ノ宮成祥, 鈴木晟幹: 痛風・高尿酸血症リスク遺伝子における迅速遺伝子検査法の確立. 第8回臨床福祉研究学術集会. 2011年2月26日～27日;東京.
85. 牧野利明: 生薬学研究への薬物動態学からのアプローチ. 一般医薬品と植物製剤研究会. 2010年5月28日;東京.
86. 牧野利明: 加工ブシ末の温裏祛寒作用. 第61回日本東洋医学会. 2010年6月5日;名古屋.
87. 牧野利明: 臨床生薬学から見た漢方医学. 第61回日本東洋医学会ランチョンセミナー. 2010年6月5日;名古屋.
88. 金丸美咲, 牧野利明, 田中久志, 清水亮輔, 奥山秀二, 水上元: 配糖化によるケルセチンの消化管吸収改善と抗アレルギー作用の増強. 第27回和漢医薬学会大会. 2010年8月28日～29日;京都.
89. Makino, T.: Mechanisms of licorice-induced pseudo-aldosteronism · Effects of glycyrrhizin and its metabolites on type 2 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase in rat kidney. The 2nd China, Japan and Korea International Conference for TCM & The 7th Sino-Russia Biomedical Forum. 2010年9月15日～17日;Harbin, China.
90. Makino, T.: "Clinical Pharmacognosy" · Integration between Pharmacognosy and Clinical Pharmacy. The 5th A JSP/CCTNM/KSP Joint Symposium on Pharmacognosy in Tokushima, 2010. 2010年9月24日;Tokushima, Japan.
91. 島戸陽太, 牧野利明, 水上元: 白朮と蒼朮の薬能の違いに関する研究～RAW264細胞を用いた抗炎

- 症作用の比較～. 日本生薬学会第57回年会. 2010年9月25日;徳島.
92. 染原渉, 水野文香, 牧野利明, 水上元: 呉茱萸含有成分エボジアミンの消化管におけるグルタミン吸収亢進作用. 日本生薬学会第57回年会. 2010年9月25日;徳島.
93. 牧野利明: 臨床生薬学から見た漢方医学. 日本東洋医学会北海道部会. 2010年10月17日;札幌.
94. 島戸陽太, 牧野利明, 水上元: 白朮と蒼朮の薬能の違いに関する研究—RAW264細胞を用いた抗炎症作用の比較—. 第40回日本東洋医学会東海支部学術総会. 2010年11月7日;名古屋.
95. 小杉加奈, 白木優作, 牧野利明, 水上元: 白虎加桂枝湯のマウス抗アレルギー作用における石膏増量の影響. 第40回日本東洋医学会東海支部学術総会. 2010年11月7日;名古屋.
96. 牧野利明: 生薬・漢方薬と西洋薬間の薬物相互反応. 第31回日本臨床薬理学会年会. 2010年12月2日;京都.
97. 牧野利明: 「水」に関わる生薬について／臨床生薬学ことはじめ. 日本東洋医学会和歌山県部会. . . 2010年12月5日;和歌山.
98. 鍵岡明奈, 牧野利明, 大竹沙紀, 山本昇平, 大澤匡弘, 小野秀樹, 水上元: オキサリプラチンによるマウス神経障害性疼痛に対する加工ブシの作用. 日本薬学会第131年会. 2011年3月28日～31日;

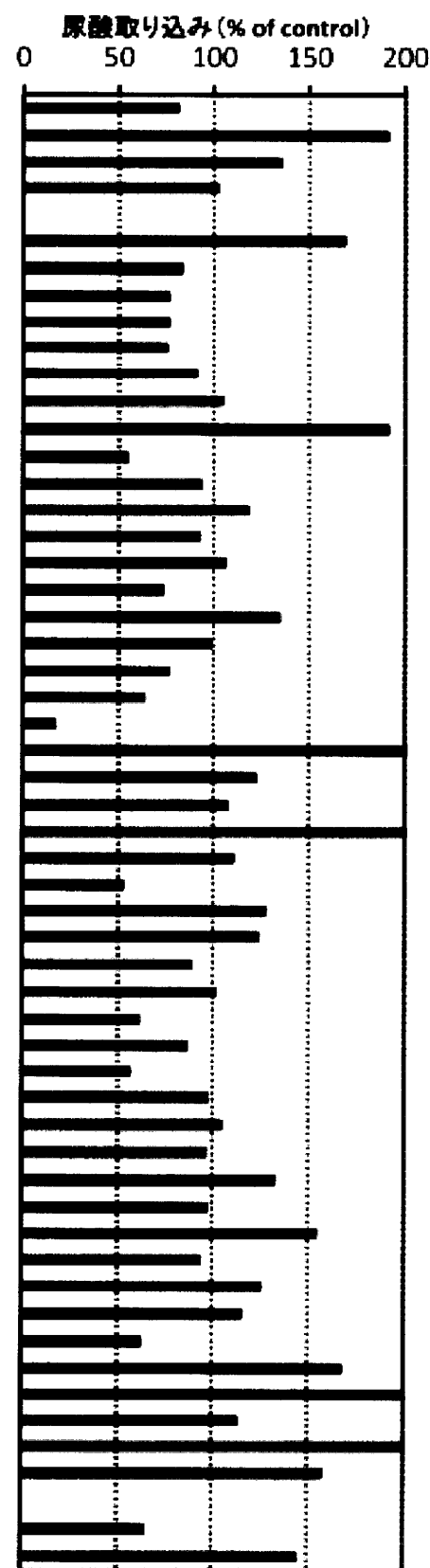
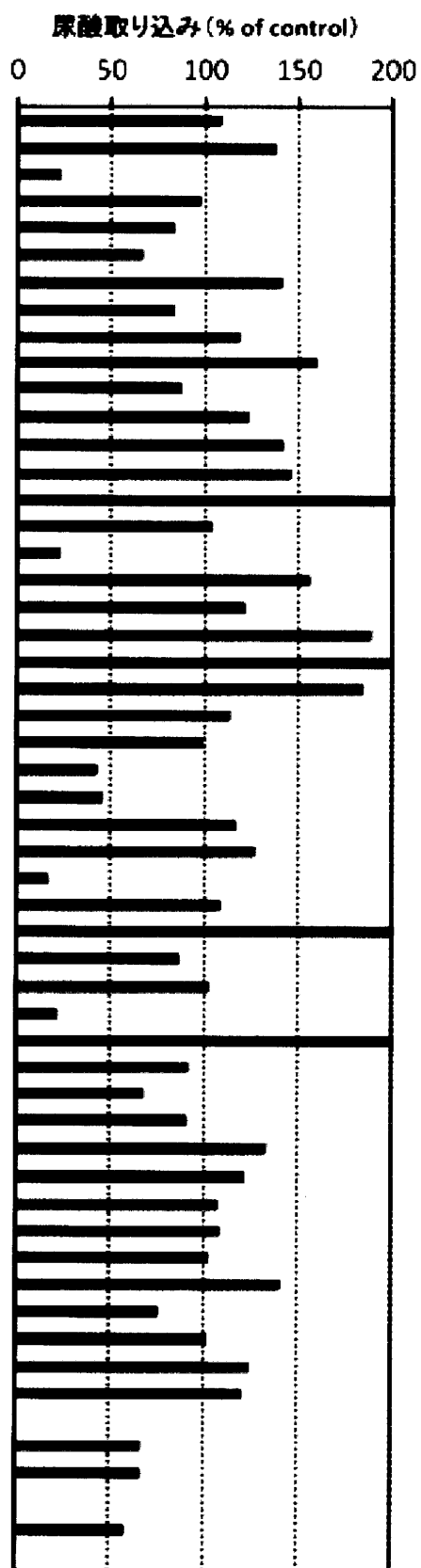
静岡.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当ありません。

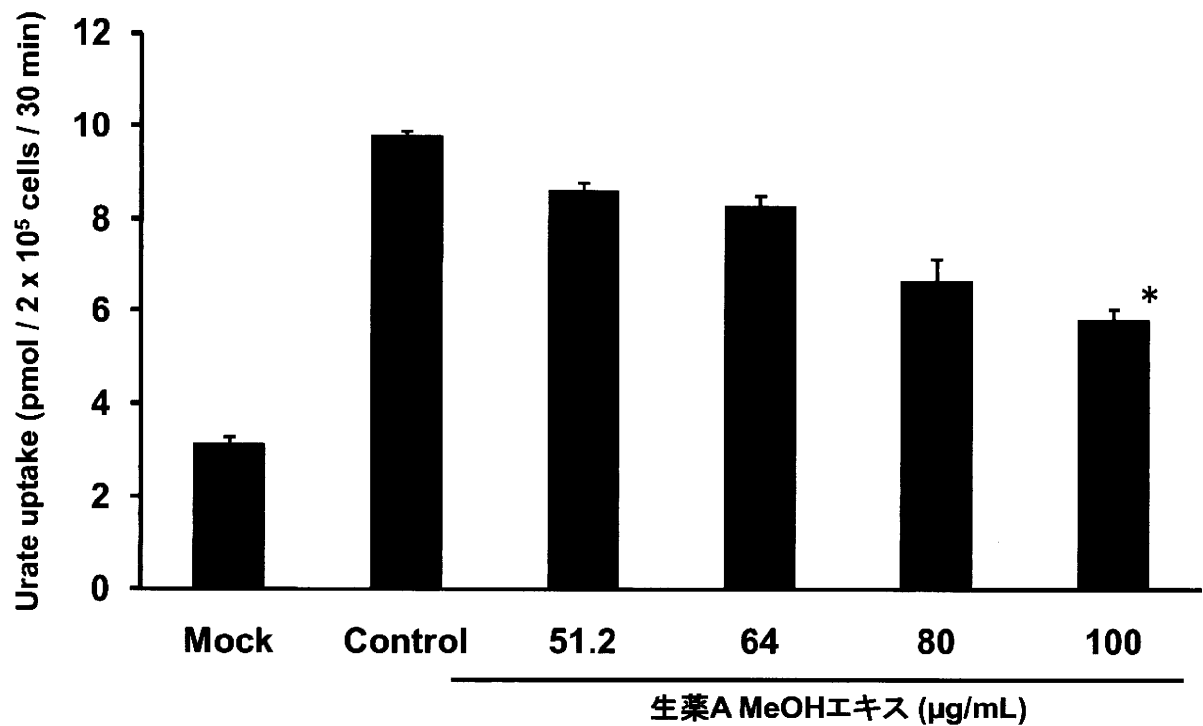


生薬から得られたエキスの収率(%)



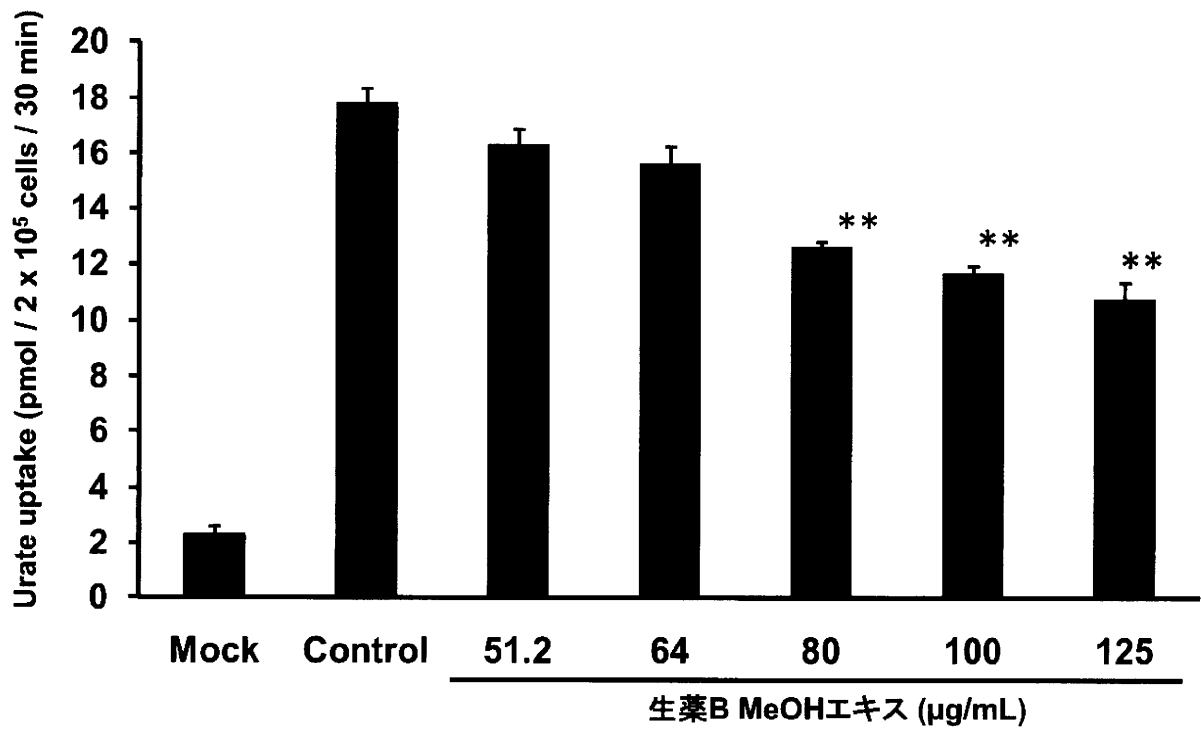
生薬エキス (100 $\mu\text{g}/\text{mL}$) によるURAT1阻害活性 (% of control)

個々のカラムが各一種類の生薬の結果を示す。



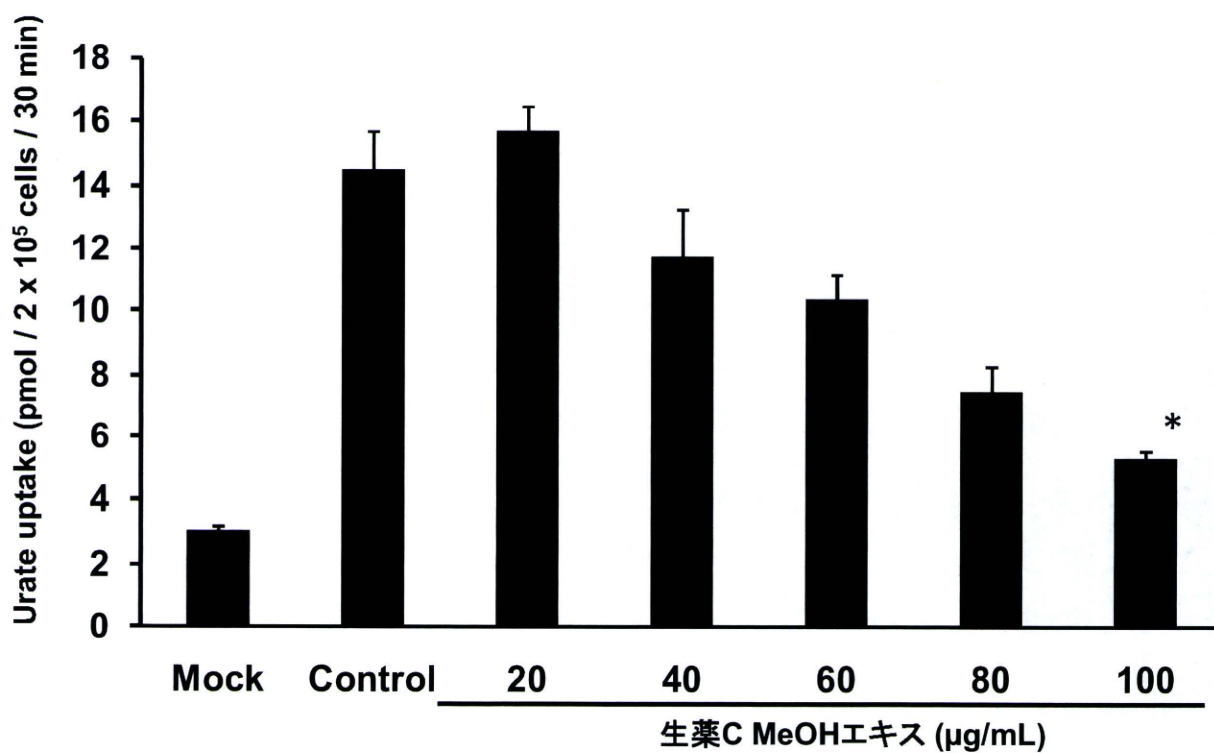
生薬A MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



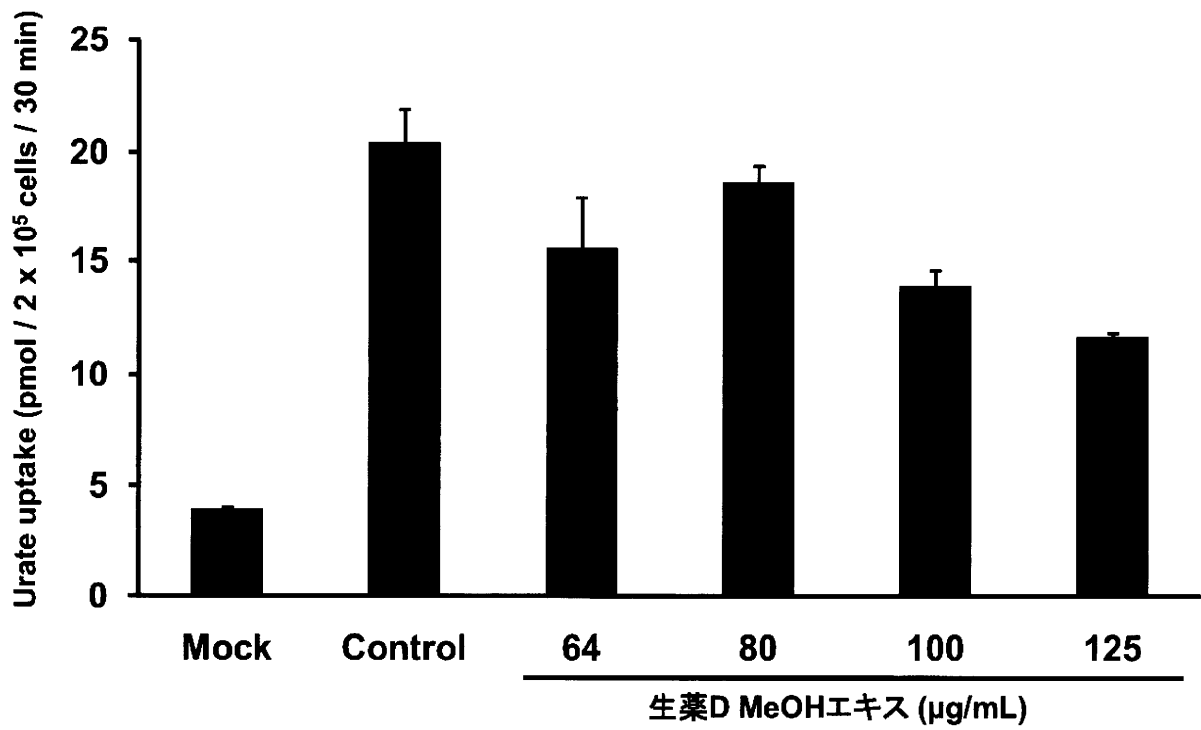
生薬B MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). ** $p < 0.01$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



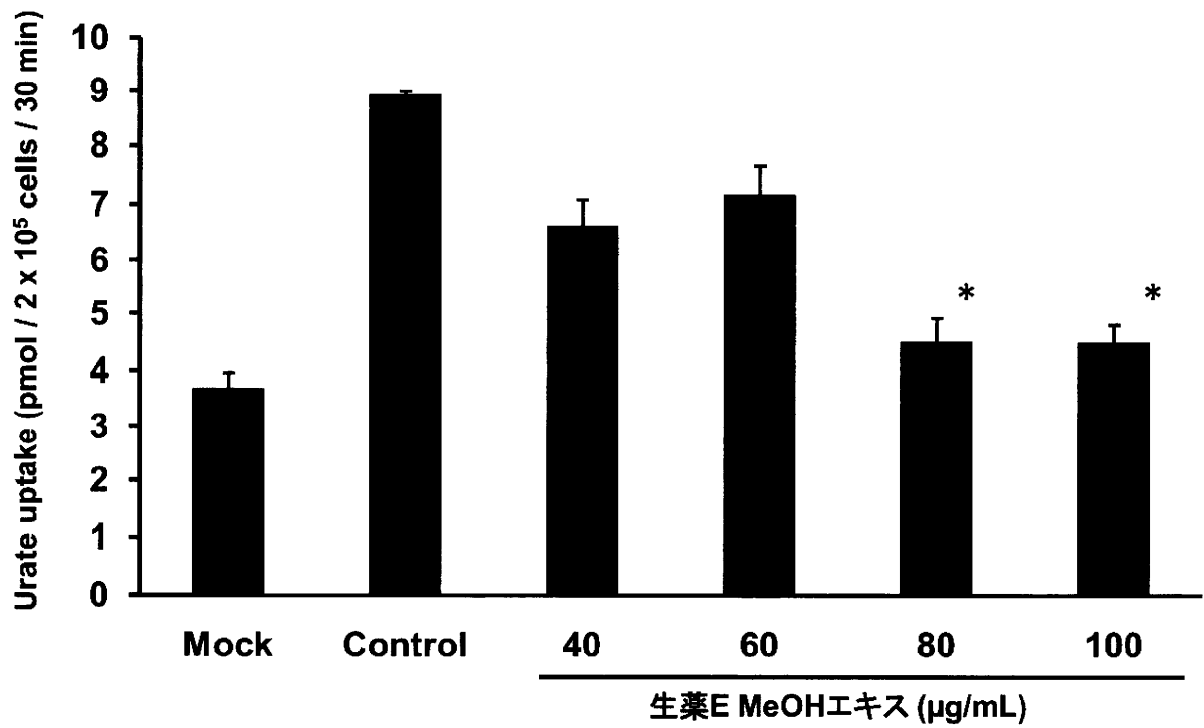
生薬C MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



生薬D MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$).



生薬E MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.